

群馬県立女子大学 外国語教育研究所だより

FLRI Newsletter vol.46

Foreign Language Research Institute 2025.3.18

外国語教育研究所は群馬県における外国語教育の拠点として、外国語教育の充実、地域社会への貢献、グローバル人材育成及び国際交流の促進に寄与することを目的として、様々な事業に取り組んでいます。

高等学校連携英語授業 英語授業のお手伝いをします



高等学校連携英語授業のページ▲

研究員によるモデル授業や個別授業支援では、高等学校のご要望や指導計画に応じた授業を実施しています。今年度後期のモデル授業は沼田女子高校、高崎商業高校、個別授業支援では伊勢崎高校、高崎女子高校、中央中等教育学校の、計5校で授業支援を行いました。

モデル授業では、研究員による文化やアイデンティティ、ステレオタイプをテーマとした講義を聞き、生徒は自分の意見を発表したり、疑問に思ったことを質問したりするなど積極的に英語を使ってコミュニケーションをとっていました。

伊勢崎高校のディベート授業では、各グループが世界の国を担当し、その国の代表としてディベートを行いました。生徒は1人1台端末を活用して担当国や周囲の国の状況を調べ、英語でスピーチを作成しました。中央中等教育学校の“Story Telling Grand Prix”では、生徒がイラストをもとに作成した物語を発表し、研究員が審査、指導助言を行いました。高崎女子高校の国際理解授業では、生徒は単元のテーマ「異文化理解と固定観念」についての研究員のエピソードを聞き、グループで自分の考えを発表しました。

研究所では、高等学校との連携を深め、英語学習の環境づくりを通して生徒の英語力向上に寄与してまいります。高等学校連携英語授業のお申し込みについては、本学ウェブサイト「高等学校連携英語授業のページ」をご確認ください。



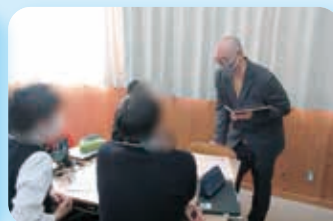
沼田女子高校



高崎商業高校



伊勢崎高校



中央中等教育学校



高崎女子高校

2月27日、3月4日に実施した英語特別セミナー“Think-about-the-issue-around-you Seminar”では、英語を使ったコミュニケーション能力の向上と自己表現能力を身に付けるために、研究員による英語研修や、本学教員による特別講義を受講して、学んだことを英語で発表しました。今回は36人の応募があり、学校を越えてのディスカッションに意欲的に取り組み、互いに刺激を受けていました。



文学部文化情報学科
尹准教授による特別講義



国際コミュニケーション学部
荒野講師による特別講義



研究員による英語研修



希望者対象
キャンパスツアー



2024年度明石塾 活動報告（10月～2月） 世界に飛び出し学ぶ明石塾生



明石塾のページ▲

2024年度
明石塾活動報告

日付	午前研修	午後研修
10月12日	英語研修⑨ Harry/Timothy/Dermot Globalization and How It Affects Japan	塩澤寛樹塾長講義「私のキャリア」
10月19日	東京フィールドワーク（午前：東京ジャーミイ 午後：JICA）	
11月9日	英語研修⑩ Harry Ethnocentrism	前半：獅子舞公演（郷土芸能鑑賞） 後半：東京フィールドワークのまとめ
11月30日	英語研修⑪ Dermot Problems Facing the World in the 21st Century	社会人講師授業 学校法人上智学院 藤井菜々子氏
12月7日	英語研修⑫ Dermot U.N. Mock Debate	地域日本語教育講演会 「多様な言語文化背景をもつ子どもたちの学び」 津田塾大学 准教授 古川敦子氏
12月21日	英語研修⑬ Milena Positive Intelligence	・明石先生著書講読 ・海外研修事前研修（参加者）
1月4日～1月9日	海外研修（シンガポール、マレーシア）	
1月25日	英語研修⑭ Harry Debrief Malaysia and Singapore	1年間の研修のまとめ
2月8日	Harry/Dermot Preparation for the Final Presentation	Presentation Practice
2月15日	Presentation Practice	成果発表会 修了式



東京ジャーミイモスク前にて

2月15日の成果発表会・修了式をもって明石塾23期生の活動が修了しました。本学教授陣の講義を通じて、論理的思考力と科学的探究心を養い、研究員による英語研修では、世界情勢に目を向けながら、自分の考えを発信し、他の塾生と意見を交わしました。東京フィールドワークや海外研修では、現地の宗教や多文化共生、環境問題について、体験を通じて深く理解することを通じて、自分の殻を破り、より広い世界へと踏み出す貴重な経験をしました。



モスクで礼拝の説明を聞く塾生



JICA地球ひろば体験ゾーンにて



JICAでのワークショップ

マレーシア・シンガポール海外研修 塾生インタビュー

佐藤 玲奈 (高崎商業高校3年)



私達は1月4日から9日にかけてマレーシアとシンガポールに海外研修に行きました。現地では日本と異なる文化や宗教に何度も驚き、異文化理解の重要性を体感しました。特に印象に残ったのは、プトラ大学での「異文化交流ワークショップ」です。SDGsに関する講義を受けた後、班ごとに日本

とマレーシアの違いについて話し合い、プレゼンテーションを行いました。食文化や服装、伝統遊びなど身近なテーマに触れる中で、新しい学びや、周りの人に共有したいと思ったことが多くありました。そして異文化を知ることは、海外の人と関わるためだけでなく、SDGs達成のためにも欠かせないと感じました。海外研修を終えて、さらに多くの国や文化について学びたいと強く思いました。これからも英語や異文化を深く学び、世界で活躍できる人材になれるよう努力したいです。

高橋 純奈 (前橋女子高校1年)



私は、明石塾の海外研修に参加して、初めてマレーシアとシンガポールに行きました。現地の大学生と交流したり、英語ガイディングツアーを受けたり、さまざまな研修を通して、視野をさらに広げることができました。現地の大学生とのグループディスカッションでは、日本とマレーシアの食文化の違いをお互いに紹介しました。また、交通や衛生、食文化の面で、日本とは異なる文化にたくさん触れることができました。そして、改めて日本は素晴らしい国であると実感しました。日本では経験することができないような貴重な体験をすることができました。今回の海外研修の学びや経験を高校生活の中でも活かしていきたいです。



マレーシア 国立モスクにて



マレーシア プトラ大学にて



シンガポール
マーライオン公園にて



シンガポール
南洋工科大学にて

成果発表会・修了式 2月15日

明石塾の研修で学んだことを英語で発表する研修成果発表会を実施しました。塾生は発表会に向けて、7月からの研修を一つ一つ振り返り、研修を通して気付いたことや今後に活かしていきたいことをスピーチに込めて発表しました。

午前は発表に向けての最終確認を研究員や学生チューターと行いました。発音や話すスピード、気持ちを伝える発表姿勢について個人指導を受けました。午後の成果発表会では、練習の成果を存分に発揮して、学長や事務局長、家族の前でプレゼンテーションを行いました。

発表会後の修了式では、塩澤寛樹塾長(女子大学長)が一人一人の名前を読み上げ、修了証書を授与しました。塾長は「成果発表会の中で皆さんが流ちょうに英語でスピーチする姿を見て、皆さんがこれからの日本を背負ってってくれるんだと本当に頼もしく思いました。日本の将来について不安な話を耳にすることも多いかと思いますが、その時まで必要な力を身に付け、それぞれ自分が決めた道で活躍していったほしいと強く願っています。」と式辞を述べました。塾生代表挨拶では、県立前橋高校2年関根悠仁さんが、「県立女子大学の先生方による様々な分野のご講義は、答えのないことを追求するという大学の授業に触れるとても貴重な機会であり、自分の興味のあることは何なのかを見つめ直すよい機会でもありました。研究員の方々の英語研修では、現代社会の課題や国際政治、世界の文化、コミュニケーションについてなど様々な話題について議論をし、実用的な英語の能力が身についたと思います。かけがえのない仲間と過ごした日々は、今後の人生において忘れられない大切な思い出となると同時に、将来の私達の大きな飛躍の第一歩であると思います。」と挨拶をしました。



研究員との成果発表に向けた練習



成果発表会



塩澤寛樹塾長式辞



塾生代表挨拶

留学支援 異国の地で語学力を高め、多様な価値観に触れる



留学情報のページ▲

留学支援実績

「海外留学支援プログラム」では、留学を希望する学生に対して海外留学奨励金を支給し、留学説明会や危機管理セミナー、個別相談を充実させ、留学をサポートしています。留学人数も今年度は63名（昨年度51名）となり、留学先もアジアや北米、ヨーロッパと世界中で学んでいます。外国語教育研究所では、日々変化する世界情勢を見据えながら、学生の安全安心な留学を支援していきます。



危機管理セミナーを受講する学生

令和6年度出発 長期留学 13名

国・地域	大学・研修機関名	留学先数	人数
カナダ	トンプソン・リバーズ大学(5) セルカーク大学(4)	2	9
マレーシア	マラヤ大学(交換留学)	1	1
中国	蘇州大学(交換留学)	1	1
韓国	高麗大学校(交換留学)	1	1
アメリカ合衆国	ハワイ大学ヒロ校(派遣留学)	1	1
計		6	13

令和6年度短期研修 50名

国	大学・研修機関名	留学先数	人数
カナダ	ハートランド・インターナショナル・イングリッシュ スクール(8) サイモンフレイザー大学(5) ビクトリア大学イングリッシュランゲージセンター(2) ILACバンクーバー校	4	16
オーストラリア	西オーストラリア大学附属英語学校(4) ロイヤルメルボルン工科大学附属英語学校(3) ディーキン大学附属英語学校 インターン研修(2) ボランティア研修(2)	5	12
ニュージーランド	オークランド大学附属語学学校(3) インターン研修(2)	2	5
アイルランド	リムリック大学附属語学学校(6)	1	6
アメリカ合衆国	インディアナ大学インディアナポリス校(4) ハワイ大学マノア校(3)	2	7
イギリス	ナセル英語学校ロンドン	1	1
韓国	弘益大学校語学堂 慶熙大学言語教育院語学堂	2	2
フィリピン	ラプラプセブ国際大学	1	1
計		18	50

学生親善大使委嘱状交付式(1月14日)

群馬県親善学生大使委嘱状交付式を実施し、令和6年度春季短期研修参加者と令和7年度長期留学前期出発参加者が出席しました。

今回は、学生26名が親善学生大使を委嘱され、塩澤寛樹学長と佐嶋洋子事務局長より激励の言葉が贈られました。塩澤学長は、「群馬県立女子大学の代表として、留学先で積極的にいろいろなことにチャレンジしてください。そして情勢を自分で確認し、時には引く勇気をもつことも忘れないでください。多くのことを吸収して一回り成長して無事に帰ってきてください。」と激励しました。佐嶋事務局長は、「留学先で多くの方々とコミュニケーションをとり、いろいろなことを体験し、吸収してきてください。世界中の皆さんに群馬県の魅力を伝え、群馬県のファンを作っていただけだと思います。」とエールを送りました。

2月から韓国の高麗大学校へ交換留学生として留学する照井雪乃さんが、「多様な考え方に触れ、自身のもつ『当たり前』を見つめ直し、多角的に物事を考えられるような人間に成長するとともに、群馬県親善学生大使として、群馬県と海外を繋ぐ架け橋となるよう尽力いたします。」と大使としての決意を表明しました。



塩澤寛樹学長から委嘱状を受け取る
学生大使代表(照井雪乃さん)



激励の言葉(塩澤寛樹学長)



激励の言葉(佐嶋洋子事務局長)

長期留学報告

国際コミュニケーション学部3年 松島 あみ トンプソン・リバーズ大学(カナダ)

私は、高校2年生の時から留学をしたいと考えていたため、大学受験の時に留学制度の充実している県立女子大学を選びました。県女では、休学をせずに留学でき、留学奨励金も支給されるため、留学したい方にはとてもよい環境だと思います。私の今回の留学の目標は、「世界中に友達をつくること」だったので、留学先は多民族国家であるカナダを選びました。初めは慣れない英語で友達をつくることにとても不安を感じていましたが、クラスメイトに初めて声をかけるときの一瞬だけ勇気を振り絞り、できる限り話しかけていきました。すると、徐々に友達が増えていき、様々な国の価値観や文化を学ぶことができました。今後の人生の糧となる、貴重な体験をすることができました。



English Help Desk 学生のリクエストに合わせて支援をしています

学生からの申し込み内容に応じて、研究所が一丸となって支援を行うEnglish Help Deskでは、今年度もスピーキング練習、留学相談、卒論の英文添削などで、延べ464名の学生が利用しました。「スピーキングの練習を大学内でできてありがたかった」「留学前の不安を解消していただいた」など満足度100%を達成しました。



研究員と会話を楽しむ学生



English Help Desk▲
のページ

グローバルカフェ 愛され続けて24年、今年度もご好評をいただきました



外国語教育研究所の研究員(全員ネイティブスピーカー)と気軽に英会話を楽しむことが出来る「グローバルカフェ」を今年度も全3期、計22回開催し、153名の学生・一般県民の方々に参加いただきました。



グローバル▲
カフェのページ

参加者の声

片亀 光さん

ほぼ40年ぶりの英会話、初日は自己紹介の英訳を準備・暗唱して臨んだので、ある程度話すことができたが、アドリブでの会話は単語が浮かばず言いよんでしまいました。

参加するうちに、たどたどしくても、伝えようとする気持ちが大切だと思えるようになりました。何より、外国人や英語に対するコンプレックスが払しょくできた心理面での成果が大きいです。ラジオ英会話や英会話アプリなどに接するうちに、グローバルカフェで話される英語に耳も少し慣れてきました。



原田 優香さん

グローバルカフェのオススメポイントは、私が通っている県立女子大学内で、同世代の学生だけでなく、幅広い世代の方々の意見や経験談を聞くことができることです。英語を使ってコミュニケーションをとることで、日本語で話すよりも気軽に話すことができます。私は2年生の後期にカナダに留学してきましたが、グローバルカフェに参加していたおかげで、留学中も現地の人たちに抵抗なく話しかけることができました。

明石杯高校生英語コンテスト 各地区の代表選手が熱戦を繰り広げました

11月8日(金)に「明石杯高校生英語コンテスト」(県高等学校英語部会、群馬県教育委員会との共催)が本学を会場に開催されました。支部予選を含め135名(昨年度162名)が参加し、75名が本選に出場しました。プレゼンテーションの部のテーマは、「How can we get along with generative AI?」でした。コンテストに向けて積み重ねてきた努力の成果を審査員や他の参加者の前で存分に発揮し、全力で発表しました。



明石杯高校生▲
英語コンテストのページ

2024 年明石杯高校生英語コンテスト 結果

順位	部門	プレゼンテーション	レシテーション	スピーチ第1部	スピーチ第2部
1位		ヴィダル カルメラ (共愛学園 1年)	中村 優花 (共愛学園 1年)	清水 謙人 (高崎商大附 2年)	ウィザロウ ソフィ (四ツ葉学園 5年)
2位		フィンドレー ニッキー 心美 (新島学園 1年)	石川 アンナ 姫子 (前橋西 1年)	田中 徳 (中央中等 5年)	パズリジャ ディリティ (ぐんま国際アカデミー 2年)
3位		土山 愛香 (高崎商大附 2年)	關 風月 (高崎北 1年)	平松 珠妃 (高崎女子 2年)	エメット 流和 (中央中等 5年)
4位		ロン 愛梨 (桐生第一 2年)	牧野 蒼空 (尾瀬 1年)	田村 メリッサ (太田東 1年)	
5位		園田 真緒 (市立太田 2年)	竹内 彩菜 (高崎経大附 1年)	小田原 天馬 (館林 2年)	
6位			熊谷 優菜 (尾瀬 3年)	ムンタシル ファヒム (館林 2年)	
特別賞		安藤 桜香 (ぐんま国際アカデミー 2年)	中村 仁美 (桐生商業 2年)	勅使河原 夏 (東京農大二 1年)	インジョン ユミコ (共愛学園 3年)



▲外国語教育研究所
ウェブサイト